

【1】2008 埼玉医科大学

△ABC の各頂点 A, B, C から対辺に引いた垂線の長さがそれぞれ 2, 3, 4 であるとき,

$$\cos \angle ACB = \frac{\boxed{(1)(2)}}{\boxed{(3)(4)}}$$

である。

【2】2007 埼玉医科大学

方程式

$$\left(\frac{3}{\sqrt{2}} - 2\right)(\sqrt{2} + 1)^x - \left(1 + \frac{1}{\sqrt{2}}\right)(\sqrt{2} - 1)^x = \sqrt{2} - 1$$

の解は  $x = \boxed{10}$  である。

【3】2006 埼玉医科大学

問A ベクトル  $(0, 0, 1)$ ,  $(4, 0, 3)$ ,  $(2, 2, 1)$  のいずれとも等しい角をなすベクトルがある。この角

を  $\theta$  とすると  $|\cos \theta| = \frac{\sqrt{\boxed{(1)}}}{\boxed{(2)}}$  である。

問B  $a^2 < b < a < 1$  のとき,

$$0, \frac{1}{2}, 1, \log_a b, \log_b a, \log_a \frac{a}{b}, \log_b \frac{b}{a}$$

を大きさの順に並べると,  $\log_b \frac{b}{a}$  は  $\boxed{(3)}$  番目に小さく, 1 は  $\boxed{(4)}$  番目に小さい。

問C 1 から 8 までの 8 個の異なる自然数を 2 つのグループに分け, 各々のグループに属する数の総和をそれぞれ  $S_1$ ,  $S_2$  とする。このとき, 積  $S_1 S_2$  の最大値は  $\boxed{(5)(6)(7)}$  である。

問D  $x$  の 2 次方程式  $x^2 + 4kx - 5k + 1 = 0$  は異符号の整数解をもつ。ここで  $k$  は整数である。このとき  $k = \boxed{(8)}$  であり, 2 次方程式の解は  $-\boxed{(9)}$  と  $\boxed{(10)}$  である。

【4】2005 埼玉医科大学

問A  $x = \frac{\sqrt{2}-1}{\sqrt{2}+1}$  のとき,

$$x^4 - 12x^3 + 54x^2 - 108x + 20 = \boxed{\text{ア}}$$

である。

問B  $\tan \theta = 2$  のとき,

$$\frac{6 \sin 2\theta + 5 \cos 2\theta}{5 \sin 2\theta + 4 \cos 2\theta} = \frac{\boxed{\text{イ}}}{\boxed{\text{ロ}}}$$

である。

【5】2001 埼玉医科大学 3/4, 1次試験, 地方 医学部

(1) 3時と4時の間で、短針と長針のなす角が  $100^\circ$  に最も近くなるのは  $\boxed{\text{ア}}$  分のときである(整数値を記入すること)。

(2) 1辺の長さが1の正四面体の体積は  $\boxed{\text{イ}}$  である。

(3) 立方体の積み木を縦横  $51 \times 51$  個敷きつめ、その上に縦横  $49 \times 49$  個の積み木を重ねる。重ねる積み木が1個になるまでこの操作を繰り返してピラミッドの模型を作るとき、必要な積み木の数は  $\boxed{\text{ウ}}$  個である。

(4)  $|\vec{a}| = \sqrt{10}$ ,  $|\vec{b}| = \sqrt{5}$ ,  $|\vec{a} + \vec{b}| = 5$  とする。いま  $t$  を任意の実数とすると、 $|\vec{a} + t\vec{b}|$  の最小値は  $\boxed{\text{エ}}$  であり、そのときの  $t$  の値は  $\boxed{\text{オ}}$  である。

(5)  $x, y, z, u, v$  の5個の文字からなる、係数が1の3次の単項式は  $\boxed{\text{カ}}$  種類ある。

【1】

問2 △ABCの各頂点に向き合う辺の長さを  $a, b, c$ 、面積を  $S$  とすると

$$S = \frac{1}{2}a \cdot 2 = \frac{1}{2}b \cdot 3 = \frac{1}{2}c \cdot 4$$

よって  $a=S, b=\frac{2}{3}S, c=\frac{1}{2}S$

これらより  $a=6k, b=4k, c=3k$  ( $k$  は実数)

とおけるから、余弦定理より

$$\cos \angle ACB = \frac{(6k)^2 + (4k)^2 - (3k)^2}{2 \cdot 6k \cdot 4k} = \frac{43}{48} \quad (\leftarrow \text{④} \sim \text{⑦})$$

【2】

(3) 与式を変形して

$$(\sqrt{2}-1)^2(\sqrt{2}+1)^x - (\sqrt{2}+1)(\sqrt{2}-1)^x$$

$$= \sqrt{2}(\sqrt{2}-1)$$

$$(\sqrt{2}+1)^x - (\sqrt{2}+1)^2(\sqrt{2}-1)^x = \sqrt{2}(\sqrt{2}+1)$$

$(\sqrt{2}+1)^x = A$  ( $>0$ ) とおくと、 $(\sqrt{2}-1)^x = A^{-1}$  だから

$$A - (\sqrt{2}+1)^3 A^{-1} = 2 + \sqrt{2}$$

$$\therefore A^2 - (2 + \sqrt{2})A - (\sqrt{2}+1)^3 = 0$$

$$\{A - (\sqrt{2}+1)^3\} \{A + (\sqrt{2}+1)\} = 0$$

$$\therefore A = (\sqrt{2}+1)^x = (\sqrt{2}+1)^2 (>0)$$

よって  $x=2$

【3】

① [答] ① 6 ② 3 ③ 3 ④ 6

⑤⑥⑦ 324 ⑧ 2 ⑨ 9 ⑩ 1

[解 説] (1) 原点を  $O, A(0, 0, 1), B(4, 0, 3), C(2, 2, 1)$  とし、 $\vec{OA}, \vec{OB}, \vec{OC}$  のいずれにも等しい角  $\theta$  をなすベクトルを  $\vec{OP} = (x, y, z)$  とおく、

$|\vec{OA}|=1, |\vec{OB}|=5, |\vec{OC}|=3$  だから

$$\cos \theta = \frac{\vec{OA} \cdot \vec{OP}}{|\vec{OA}| |\vec{OP}|} = \frac{z}{|\vec{OP}|} \quad \dots\dots\dots \text{①}$$

$$= \frac{\vec{OB} \cdot \vec{OP}}{|\vec{OB}| |\vec{OP}|} = \frac{4x+3z}{5|\vec{OP}|} \quad \dots\dots\dots \text{②}$$

$$= \frac{\vec{OC} \cdot \vec{OP}}{|\vec{OC}| |\vec{OP}|} = \frac{2x+2y+z}{3|\vec{OP}|} \quad \dots\dots\dots \text{③}$$

①, ②から  $5z=4x+3z \quad z=2x \quad \dots\dots\dots \text{④}$

①, ③から  $3z=2x+2y+z$

整理して  $z=x+y$

ここに④を代入して  $z=2y \quad \dots\dots\dots \text{⑤}$

④, ⑤を①に代入すると

$$|\cos \theta| = \frac{|z|}{\sqrt{\left(\frac{z}{2}\right)^2 + \left(\frac{z}{2}\right)^2 + z^2}} = \frac{2}{\sqrt{6}} = \frac{\sqrt{6}}{3}$$

(2)  $a^2 < b < a < 1$

だから底を  $a$  とする辺々の対数をとると

$$\log_a a^2 > \log_a b > \log_a a > \log_a 1$$

整理して  $1 < \log_a b < 2 \quad \dots\dots\dots \text{①}$

この結果を用いて

$$\frac{1}{2} < \log_b a = \frac{1}{\log_a b} < 1 \quad \dots\dots\dots \text{②}$$

また  $\log_a \frac{a}{b} = \log_a a - \log_a b = 1 - \log_a b$

よって  $-1 < \log_a \frac{a}{b} < 0 \quad \dots\dots\dots \text{③}$

さらに  $\log_b \frac{b}{a} = \log_b b - \log_b a = 1 - \log_b a$

よって  $0 < \log_b \frac{b}{a} < \frac{1}{2} \quad \dots\dots\dots \text{④}$

①, ②, ③, ④から

$$\log_a \frac{a}{b} < 0 < \log_b \frac{b}{a} < \frac{1}{2} < \log_b a < 1 < \log_a b$$

したがって、7つの数のうち  $\log_b \frac{b}{a}$  は3番目に小さく、1は6番目に小さい。

(3)  $n$  を自然数とする。いくつかの自然数の和が  $2n$  のとき、自然数を2つのグループに分ける。2つのグループの和がともに  $n$  のとき、この2つのグループの積  $n^2$  が最大となる。それは  $k$  を0でない整数として

$$n^2 > (n+k)(n-k) = n^2 - k^2$$

が成り立つからである。この問題では

$$1+2+3+4+5+6+7+8=36$$

だから

$$S_1 = 1+2+7+8=18, S_2 = 3+4+5+6=18$$

とおくことによって、積  $S_1 S_2$  の最大値は

$$18 \times 18 = 324$$

(4)  $x^2 + 4kx - 5k + 1 = 0 \quad \dots\dots\dots \text{①}$

から  $x^2 + 1 = k(5 - 4x)$

①が異符号の整数解をもつとき、

2つのグラフ  $y = x^2 + 1$  と

$y = k(5 - 4x)$  が  $x$  座標が正の部分と負の部分で共有点をもつ

て  $x$  座標が整数になるときである。それは直線のグラフが点  $(1, 2)$  を通るときに限られるから、 $x=1$  を①

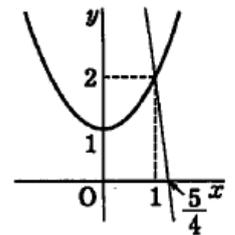
に代入して

$$1 + 4k - 5k + 1 = 0 \quad \text{から} \quad k = 2$$

この値を①に代入して

$$x^2 + 8x - 9 = 0 \quad (x+9)(x-1) = 0$$

から、2次方程式の解は  $x = -9, 1$



【4】

**解説** (1)  $x = \frac{\sqrt{2}-1}{\sqrt{2}+1} = (\sqrt{2}-1)^2 = 3-2\sqrt{2}$

だから

$$(x-3)^2 = (-2\sqrt{2})^2, \quad x^2 - 6x + 1 = 0$$

$$\begin{aligned} \therefore x^4 - 12x^3 + 54x^2 - 108x + 20 \\ = (x^2 - 6x + 1)(x^2 - 6x + 17) + 3 = 3 \end{aligned}$$

(3)  $\tan \theta = 2$  のとき

$$\begin{aligned} & \frac{6\sin 2\theta + 5\cos 2\theta}{5\sin 2\theta + 4\cos 2\theta} \\ &= \frac{12\sin \theta \cos \theta + 5(\cos^2 \theta - \sin^2 \theta)}{10\sin \theta \cos \theta + 4(\cos^2 \theta - \sin^2 \theta)} \\ &= \frac{12\tan \theta + 5(1 - \tan^2 \theta)}{10\tan \theta + 4(1 - \tan^2 \theta)} = \frac{12 \cdot 2 + 5(1 - 2^2)}{10 \cdot 2 + 4(1 - 2^2)} = \frac{9}{8} \end{aligned}$$

**別解**  $\tan 2\theta = \frac{2\tan \theta}{1 - \tan^2 \theta} = -\frac{4}{3}$

を与式  $= \frac{6\tan 2\theta + 5}{5\tan 2\theta + 4}$  に代入する方法もある。

【5】

① [答] ア 35 イ  $\frac{\sqrt{2}}{12}$  ウ 23426 エ  $\sqrt{5}$

オ -1 カ 35

**解説** (1) 3時と4時の間で、短針と長針のなす角が  $100^\circ$  になる時刻を3時  $x$ 分とすると、次の方程式が成り立つ。

$$6x = 90 + \frac{1}{2}x + 100 \iff \frac{11}{2}x = 190 \iff x = 34\frac{6}{11}$$

これに最も近い整数は 35

(2) 1辺の長さが1の正四面体の底面積は  $\frac{\sqrt{3}}{4}$ 、高さは

$$\frac{\sqrt{6}}{3} \text{ であるから、体積は } \frac{1}{3} \times \frac{\sqrt{3}}{4} \times \frac{\sqrt{6}}{3} = \frac{\sqrt{2}}{12}$$

(3)  $51^2 + 49^2 + \dots + 1^2 = \sum_{k=1}^{26} (2k-1)^2$

$$= 4 \sum_{k=1}^{26} k^2 - 4 \sum_{k=1}^{26} k + 26$$

$$= 4 \times \frac{26 \times 27 \times 53}{6} - 4 \times \frac{26 \times 27}{2} + 26 = 23426$$

(4)  $|\vec{a}| = \sqrt{10}$ ,  $|\vec{b}| = \sqrt{5}$ ,  $|\vec{a} + \vec{b}| = 5$  のとき、

$$|\vec{a} + \vec{b}|^2 = |\vec{a}|^2 + 2\vec{a} \cdot \vec{b} + |\vec{b}|^2 = 10 + 2\vec{a} \cdot \vec{b} + 5 = 25$$

となるから  $\vec{a} \cdot \vec{b} = 5$ 、このとき

$$\begin{aligned} |\vec{a} + t\vec{b}|^2 &= |\vec{a}|^2 + 2t\vec{a} \cdot \vec{b} + t^2|\vec{b}|^2 = 5t^2 + 10t + 10 \\ &= 5(t+1)^2 + 5 \end{aligned}$$

は  $t = -1$  のとき最小値 5 をとる。よって  $|\vec{a} + t\vec{b}|$  の最小値は  $\sqrt{5}$ 、そのときの  $t$  の値は -1

(5)  ${}_{5+3-1}C_3 = {}_7C_3 = 35$